日光・みなかみの旅 2018

旅のチカラ研究所

2018 年 6 月

旅のチカラ研究所　植木圭二

　栃木県日光市から群馬県みなかみ町にドライブ旅行に行ってきた。友人が企画、添乗、会計、配車、運転をしてくれたので私は乗っているだけという気ままな旅になった。

■面白そうな旅

　今回のメンバーは 84 才の大御所 N さん、彼がこの旅の企画、添乗、会計をしてくれている。運転は O さん、元会社経営者で育ちの良さがうかがえる貴公子だ。もう一人 T さんは元商社役員で、若い時にマグロ漁船に一年間乗っていたというツワモノだ。そして私を入れた 4 人組である。

　日光・みなかみは私にとってほぼ地元ではあるが、全部他人がお膳立てしてくれた旅は、手の内が分かっていないためか面白そうな旅が始まる予感がする。

■日光といえば湯葉

　まずは日光、そして日光といえば湯葉である。N さん馴染みのそば屋「弦庵」に立ち寄る。

この店はエントランスがビルの下で雨風がしのげるので玄関の前でもテーブルが置いてありそこで食べることも出来るという一風変わっている店だ。

店の中も変わっていて、オーナーの趣味らしくたくさんのギターや楽器が壁に架かっている。

そして、注文はもちろん湯葉そばだ。

■日光の社寺、世界遺産

日光は「日光の社寺」として輪王寺、東照宮、二荒山神社の 3 つで世界遺産登録されている。

まずは輪王寺に行くが、残念ながら修復中になっている。全てを包み込む建屋を設けての修復なので、こういう光景も珍しいので写真におさめおく。

続いて東照宮。こちらは昨年、陽明門の修復が終わってのお披露目になる。

「見ざる、聞かざる、言わざる」で有名な三猿の彫刻があるが、これは人の一生を猿で描いたものだという。見てはいけない、聞いてはいけない、そして言ってはいけないという現代でも充分に通用する処世術らしい。

そして伝説的な彫刻家「左甚五郎」が彫ったとされている「眠り猫」がる。これは知らないで訪れると気が付かない人も多いかもしれない。

この眠り猫の下をくぐると、徳川家康の墓に行くことが出来る。

家康の墓は、眠り猫から上り坂を歩いて 5 分くらいのところにひっそりと建っている。

陽明門をバックに記念撮影をしてもらう。ここはプロの写真屋が写真を撮り販売する場所なのだが、昨今はカメラ持参の人が多いのでお客のカメラでも撮ってくれる。もちろんプロのカメラでも撮ってくれるので、お客は買わなくてもよいのだが、それは心情というもので何人かに一人くらいは買っているようだ。

そして私たちのその一人になる。

二荒山神社にも立ち寄る。これで世界遺産の３つの社寺を拝観したことになる。

そして東照宮からの帰り道、表参道を下っていく。ここの標高は 634m というから東京スカイツリーと同じく位だ。

この下り坂の広い参道は両側に広がる木々とのコラボレーションが抜群に良く、私の一押しの景色になる。

■霧降高原

東照宮から 10km ほど車で走ると霧降高原に着く。ここの標高は 1400m くらいなので、この時期では寒いほどになる。残念ながら有名なニッコウキツゲはまだ早く、見ることができない。

■心地よい宿

宿は霧降高原の中にあるＮさんの馴染みのペンション「はじめのいっぽ」に泊まる。お客は私たちだけという貸し切り状態で、家族全体で迎い入れてくれるからありがたい。

夕食の豚しゃぶしゃぶを簡単にたいらげる。平均年齢が高い割には良く食べるメンバーだとペンションのオーナーも感心する食べっぷりだ。

そして酒盛りが始まるのだが、Ｎさんの差し入れのスコッチウイスキーをオーナーも一緒に頂く。

N さんは大のスコットランド好きで、スコッチウイスキーについても詳しい。何しろ自宅にスコッチウイスキーミニチュアボトル 3000 本を収集しているから凄い。

今回はジョニーウォーカーのブラックラベル、グリーンラベル、そしてブレンダーズ・バッチを持ってきてくれた。

ブレンダーズ・バッチは最近発売されたもので、珍しい。

とうもろこし、小麦、大麦の 3 種類のグレーンとアメリカンオークで 10 年以上熟成した原酒を使用しているという。大変飲み易いウイスキーだ。

■日光といえば中禅寺湖

中禅寺湖から流れ出る水が有名な華厳の滝になる。高さは 97m ということだが、遠くから、そして上から見ているのでそんな高い感じがしない。実はエレベータで滝壺近くまで行けるのだが、そのエレベータ代 550 円を節約した。

人間も同様で、人を遠くからとか上から見ているならば、その人の凄さや素晴らしさは分からないだろう。そしてその場合はエレベータ代を節約してはならない。

華厳の滝は那智の滝（和歌山県）、と袋田の滝（茨城県）と日本三名瀑の一つになっている。

華厳の滝からほど近い、中禅寺湖の東の湖岸にイギリス大使館、イタリア大使館の別荘記念公園がある。あまり知られていない施設だ。かつて欧米各国が大使館の別荘を涼しく風光明媚な中禅寺湖畔に置かいていたが、現在はその役目を終えて記念公園になっている。

ほぼ地元民を自称する私も知らなかったもので、あまり知る人もいない。隠れた穴場かもしれない。

こちらがイギリス大使館別荘で、中は一般開放されている。

そして、イギリス大使館別荘前で記念撮影をする。

こちらがイタリア大使館の別荘になる。

中禅寺湖から直接船で入ることが出来るように桟橋まで完備されている。この桟橋は今も使われているらしい。

桟橋に繋がるアプローチに並んで記念撮影をする。ポーズを決めると、なかなかさまになっている。

■奥日光

戦場ヶ原でも記念撮影、平日のこの時期は誰も邪魔されない。

戦場ヶ原から奥日光に向かう。湯ノ湖からそそぐ湯滝は、水量もあってなかなか見ごたえがある。滝壺の直ぐ近くまで行けるので迫力も感じる。

ここでも誰に気兼ねもなく記念撮影ができる。

■金精峠を越える

金精峠を越え、群馬県に入る。程なくして大滝という食事処に立ち寄る。群馬といえばうどんになるが、この店は蕎麦もやっている。

この地域では舞茸の天ぷらが名物になっているので、舞茸うどんをいただく。

さらに、この店の駐車場には金精様のご神体が祀られている。昔、金精峠にあったものを移設したという。金精様とは男性のシンボルのことで、ＴさんもＯさんもこれは凄いと驚きを隠せないでいる。そして女性のシンボルも合わせて祀られている。

■奥利根

奥利根ゆけむり街道、照葉峡の脇の道を走る。照葉峡とは、十和田湖から流れる有名な奥入瀬渓流の群馬版のような場所だとOさんが熱く語る。

■奈良俣ダム

ゆけむり街道から少し北に外れると、奈良俣ダムという見事なダムに遭遇する。

このダムは日本では珍しいロックフィルダムという構造になっており、日本人が描いているダムのイメージとは違って急峻な反り立つ壁は無く、水をせき止める壁の部分はなだらかな堤防のような形をしている。

私はこの構造のダムはエジプトのナイル川の上流に造られたアスワンハイダムを見て以来で、日本で見るのは初めだ。

高さは 158m で利根川水系のダムでは最も堤高が高いダムになっている。

■みなかみ温泉に泊まる

みなかみ温泉の「山楽荘」に泊まる。昔ながらの落ち着きのある旅館で、和室を 2 部屋とってもらう。ここも N さんの馴染みの宿で、特別待遇なのがありがたい。貸し切り状態なので気を遣うことなく落ちつく。

みなかみ温泉は、私にとっては実に久しぶりの宿泊になる。昔に比べるとやはり街全体は元気がない。テレビドラマ「東京ラブストーリー」で冬の温泉宿に行くシーンがあったが、それがみなかみ温泉だったことを思い出す。

■谷川岳

土合駅近くの天神平ロープウェイの駐車場に車を置き、ロープウェイは霧で下界が見えないので歩いて散策する。ちょうど 30 分くらいだろうか、白い雪渓が残る有名な「一の倉沢」に着く。

この一の倉沢が何で有名かというと、昔多くの遭難者や滑落者を出した場所だからだ。亡くなった方々の名前や年齢が刻まれたプレートが岩肌にいくつも掲げられている。みんな若い人たちばかりで、20 代から 30 代だ。

そして今、その前で手を合わせている我々はその 3~4 倍も生きている。君たちの分まで頑張って生きてきたよ、そしてこれからもねと。

帰りは地球環境によいという電気自動車のバスに 500 円を出して乗車して戻ってくる。

実はこの電気自動車と似たようなバスを見たことがある。同じ群馬県の桐生市で走っている低速電動コミュニティバス「MAYU（まゆ）」だ。

色こそ違うが全く同じ車体を使っている。群馬大学工学部が試作したソーラー発電を備えた電気自動車で桐生市に貸し出し、こちらは土日祝に無料で試験運行している。

このような乗り物は今後も増えてくるだろう。

■谷川温泉

谷川温泉の一角にある「天一美術館」に立ち寄る。ここは私立美術館だが岸田劉生の「麗子像」をはじめとして佐伯祐三、安井曽太郎、熊谷守一、ルノワール、ピカソの名画が展示されている。

それにしてもＮさんは、こんな美術館までよく知っているとはさすがだ。

もう一つＮさんをほめることになる。

麗澤大学の谷川セミナーハウスという立派な施設に立ち寄る。何とＮさんがその大学の学生というのだから驚きである。人生をあらかた悟った人がさらに勉強をするというその姿勢が素晴らしい。

「公開講座があるから、植木さんも近くの大学に行ってみたら」とＮさんに誘われる。そんなありがたい誘いがあるのも、この旅の収穫だろう。おっと、収穫は講座に行っての話だ。

■ダムカレー

みなかみ町には奈良俣ダムの他に藤原ダム、八木沢ダムなどあり、ダムが多い。

道の駅の食堂に立ち寄ったらダムカレーがあった。それは比較的深いカレー皿の真ん中付近にダムの堤防に見立ててご飯を 3cm くらいの幅で高く盛りつけて、ダム湖に当たる部分にカレールウが満たされている。

残念ながらロックフィル構造になっていないが、いかにも日本のダムだろうという形をしている。

ダムカレーは神奈川県の宮ケ瀬ダムでも見かけた。堤防部分にウインナソーセージが貫通するように刺さっており、それを抜くとカレーが流れ出るのでダムの放流を意識した構造になっているから面白い。

いろいろ調べてみると日本全国で 140 種類以上のダムカレーが存在しており、各ダム近くでは名物になっているようだ。日本ダムカレー協会なるものまで組織されている。

これからはダムにいったらダムカレーだ。

■こんな旅も良い

今回の旅は、清々しい 5 月の終わりの良い旅になった。そして何よりも良かったことは、何もやらないで据え膳を食べるだけという旅行は本当にありがたい。

こんな旅もたまには良いだろう。

2018 年 5 月 28 日~30 日にて 2 泊 3 日の日光・みなかみの熟年男 4 人の自動車旅行だった。